

「話すこと・聞くこと」の資質・能力を活用・発揮してインタビュー活用を行うアイデア

実践場面

高等学校2学年 国語表現

「自分の思いや考えが伝わるよう、話の展開や内容を工夫する場面」

「情報を収集，整理し伝え合う内容を検討する場面」

「他者との多様な交流を通して伝え合う内容を検討する場面」

ねらい

インタビュー活動を学習活動に取り入れて、「話すこと・聞くこと」に関する多様な資質・能力の育成を目指す。

【アイデアのポイント】

言語活動として「インタビュー」を紹介します。汎用性が高く、「話すこと・聞くこと」の領域における様々な学習場面で活用できます。また、これまでに身に付けた資質・能力を組み込みながら、新たな資質・能力の獲得を目指す場合などの多様な組み合わせが可能です。

～インタビュー活動を実施する際の留意点～

- ・インタビューをする際は、**できるだけ多くの質問を準備する**。目標は1回のインタビューで50個。
- ・インタビューをする際の質問は、できるだけ**「YES・NO」にならないような質問**を準備する。
- ・**「よい聞き手」になる**こともインタビューでは大切。
- ・相手の答えの中に、次の質問のヒントが埋まっている。**相手の話をよく聞こう**。
- ・**聞き手も話し手も**、表情が大切。
- ・まず、**短い時間（5分程度）からインタビューに挑戦**してみよう。

（令和2年度 総合教育センターC-3講座 A B S秋田放送 賀内隆弘氏の講義より）



このように、インタビュー活動には、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の資質・能力につながる様々な要素が含まれています。

インタビューの「ねらい」に応じて育成できる様々な資質・能力（例）

【話すこと】

ウ 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。

エ 相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように工夫すること。

【聞くこと】

ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

オ 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。

【話し合うこと】

キ 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

インタビュー活動は、「質問する側」と「答える側」がいるから、色々なパターンが考えられる言語活動になりそうですね。「書くこと」で身に付けたメモや構成力なども組み合わせることができそうですね。



新たな資質・能力の獲得を目指す組合せ（例）

これまでに身に付けた
資質・能力

活用・発揮

新たに身に付けたい資質・能力

【話すこと】

ウ 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。

【書くこと】

ウ 目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすること。

学習活動

【聞くこと】

ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

【話し合うこと】

キ 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

この部分をつなぐ「学習活動」として、「インタビュー」を取り入れてみてはいかがでしょうか。獲得を目指す資質・能力によって、インタビューを設定する意図も変わってきます。

【研修講座の様子】



①ペアでインタビューに挑戦



②インタビューの感想を話し合う



③代表者によるインタビューを聞く



④映像による考察

【研修講座の感想から】

- ・短時間で取り組むことができ、ペアや3人グループを作ったりすることで全員が参加できる活動になると思いました。
- ・インタビューをする時、相手に考えさせすぎないように、50問を考えて臨み、演習をすることで、もっと広く深く話してもらうことができると思いました。自分の興味を広げながらトレーニングをしていきたいと思いました。話合いについても、自分で経験してみると、話を聞きながら、どこで相手との共通点を探せるかを見いだしていくことも大事だと教えていただきました。
- ・録画した自分の姿を見るのは慣れませんでした。が、「話すこと・聞くこと」ではICT活用も有効な手段だと感じました。
- ・話題の膨らませ方や相手から話を聞き出すコツなど大変勉強になった。「話すこと・聞くこと」の様々な学習に取り入れることができると思った。

【受講の先生方と共に】

R3年度は、資質・能力の育成に向けて、インタビュー活動を取り入れた「話すこと・聞くこと」の年間計画を作成しました。受講者の方が作成した年間計画を紹介します。

【演習】「話すこと・聞くこと」の年間計画作成（20分）

・対象学年【 5 】年

・生徒の実態

興味をもって聞くことにかの差がある。
話すことは好きだが、公の場では進んで話すことができない。

← 児童生徒の実態

学期	単元名	時間	どんな資質・能力を育成するか	学習活動
1 学期	きて、きて、きてみよう。	6	話し手の目的や自分が聞くことする意図に応じて、話の内容を伝え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。	インタビューをし、報告し合う。
2 学期	よりよい学校生活のために	6	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたり伝え合う内容を検討することができる。	身の回りの問題を解決するために話し合う。
3 学期	提案しよう、言葉とわたしたち	6	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見と区別するなど、話の構成をえること。	提案するスピーチを行う。

← インタビューを通して身に付けさせたい資質・能力

← 1学期の学習を土台として踏まえ、2学期3学期と発展させていく。